

2. 人びとのくらしと田や畑の仕事

(1) 山都町の農業のようす

山都町の人口のおよそ3分の1の人が農業をしています。町全体の土地のおよそ80%が、山林・原野^{げんや}であるため、人の住む面積^{めんせき}はわずか9%ぐらいしかありません。

田畑が多くみられるのは、おもに町の南に広がる平らな地いき^み（三津合^{つあい}、小舟寺^{こふなじ}、木幡^{こはた}、旧山都地区^{きゅう}）です。そのほか、一ノ戸川^{いちのとがわ}や早稲^{わせ}谷川^{だにがわ}、五枚沢川^{ごまいざわがわ}など川ぞいにもみられます。三津合地区^{みつあい}では、開田^{かいてん}が進められ1まい1まいの田が広がっています。これは、トラクターやコンバインなどのきかいを使いやすいようにするためです。しかし、山の間には、まだ多くのたな田とよばれる田がのこっています。たな田は、むかしから、すこしでも米を多く作ろうとして山ぎわのななめになっている土地に、たなのようにだんだんに小さな田をつくったところ^{さわ}です。町には、いくつもの沢^{さわ}があり、その沢にそってたな田が多くみられます。



たな田



開田された田